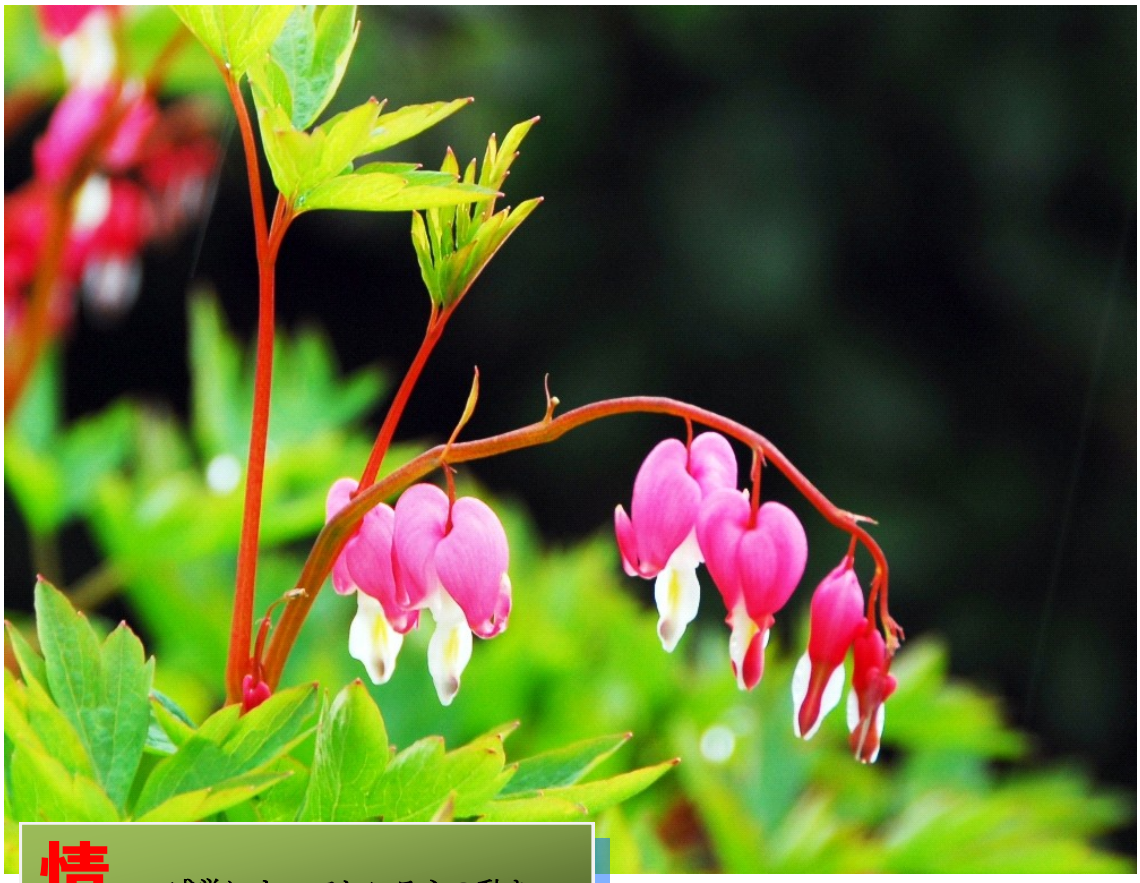
全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第37号(平成24年２月号)



情　－感覚によっておこる心の動き－

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　鈴木　正之
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

全国塾長・職員研修大会
私塾ネット設立１０周年記念大会

『激動し続ける日本これからの人づくり』
～果たして塾や学校は今までのあり方でいいのか？～

日時：平成２４年（2012年）４月２２日（日）
会場：東京・スカイツリー　「浅草ビューホテル」
　　東京都台東区西浅草3-17-1

プ ロ グ ラ ム
第一部　研修大会　　開場　午後1時30分
①『設立10周年記念式典』　午後2時00分～3時15分
・映像で見る「私塾ネットこの10年」
　関東代表：仲野十和田先生
・ご挨拶：3つの任意団体から「私塾ネットへ」
　センター理事長　：鈴木正之先生
・ご来賓祝辞　（私学代表、学習塾代表）
・功労者表彰・感謝状授与
　私塾ネット会長・実行委員長：谷村志厚先生
・エリア代表から近況とご挨拶
・謝辞　名誉会長山口恭弘先生

②『設立10周年記念講演会』午後3時30分～5時30分
◆「塾団体50年史・学習塾100年史」出版報告
　センター渉外部長：佐藤勇治先生
◆記念講演　　上甲晃（じょうこうあきら）氏
　『激動し続ける日本、これからの人づくり』
～果たして塾や学校は今までのあり方でいいのか？～

研修担当の田中宏道です。10周年記念講演に、松下政経塾を塾頭、副塾長を務められ、野田首相、玄蕃大臣、松原大臣などを育てられた「上甲晃氏」をお迎えします。

上甲氏は、今の教育の混迷を憂い、「志力」の育成に全国を奔走されています。バブル経済の崩壊、リーマンショック、中国・インドの躍進、東日本大震災など、激動し続ける日本の中で、教育はいかにあるべきか。先生のご講演はきっと大きな示唆を与えてくださることでしょう。

日本各地で感動を与えている上甲晃先生のご講演が、全国の学習塾、私学、協力企業のみなさまの「志」振り返りの場となってくだされば、たいへんありがたいです。お待ちしております。

以下は、上甲晃先生のお考えの一部です。ご参考にされてください。

「志力」こそ、これからの日本人が取り戻さねばならぬものです。今の教育の混迷は国に夢がないからです。企業でも、こういう会社をつくろうと思うからそれにふさわしい社員を育てるでしょ。国家にビジョンも夢もないのに、教育なんかしようがないんです。

松下幸之助に、松下政経塾をつくった目的は何ですか、今の政治家に足りないものは何ですかと、聞いたことがあります。幸之助は一つだけ言いました。「国家百年の計を持った政治家が要るんや」と。

青年塾をつくったのもまったく同じ思いです。やっぱり次の時代を託するのにふさわしい若い人を育てたい。百年というのは当然自分が死んだ後のことです。我々一人ひとりも、目先のことや自分のことだけでなく、百年といった長い時を視野に入れた高い志を立てる。

その志を全うしようと心に誓い、行動を起こすことで、きっと日本はよくなると信じています。

月刊「致知」2007年4月号「人生に誓う者を持つ」
「天空の森」主人　田島健夫さんとの対談より抜粋

上甲晃先生＜プロフィール＞
昭和16年大阪生まれ。昭和40年に京都大学教育学部を卒業し、松下電器産業株式会社に入社、広報、電子レンジ販売などを担当。昭和56年、財団法人松下政経塾に転勤し、平成7年10がつまで同塾塾頭、常務理事、副塾長を務める。平成8年4月に松下電器産業株式会社を退職し、志ネットワーク社を設立。21世紀を担う若い人材の育成に尽力。現在は山梨県で展開する「夢甲斐塾」の塾長。また、活動の一環として、「青年塾」を創設し、青年の啓蒙に当たっている。
＜著書＞「志のみ持参」「続・志のみ持参」「日々発見日々感動」「志を教える」他多数

第二部『設立10周年記念パーティ』
　午後6時00分～8時00分

熱気あふれる第一部に引き続き、第二部ではお食事をしながらさまざまな意見交換・情報交換をいたしましょう。

着席式のパーティーですのでゆったりとおくつろぎいただけます。また、浅草ならではの演芸コーナーとして、「江戸紙切り芸・林家正楽師」の妙技をご堪能いただきます。

・ご挨拶　・乾杯　・ご来賓祝辞
・映像で見る「私塾ネットこの10年」
・演芸「江戸紙切り芸」林家正楽師

・アイスブレイク　・テーブルスピーチ
・謝辞
・エリア代表から近況とご挨拶

理事長活動日誌

理事長　鈴木正之

理事長　鈴木正之(いぶき学院)

東日本大震災の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げますとともに、私塾ネットとして支援活動の継続をしていきたいと考えております。

２０１２年、昨年の４月開催予定を１年間延期した私塾ネットの１０周年記念式典が４月２２日に開催される。私塾ネットは２００１年６月の発足、４月ならば１０年目という訳である。まずは、１０周年を迎えられたことを嬉しく思うと同時に、理事長を４年間やってこられたことに対して、会員の方々を始め皆様に感謝申し上げたい。

以下、１０月下旬からの主な参加行事である。一言コメントにさせていただく。

●１０月２３日（日）エリア関東：私学情報交換会

毎年楽しみな行事。桂馬先生の手作りの会であるが、仲野エリア関東代表と渡辺総務部長がさらにいい味を出している。人を感じさせる会である。学習塾の先生も私学の先生も大勢参加していただきたい。

●１０月３０日（日）　エリア四国：研修会

湯口副理事長の場の作り方はいつもながら関心させられる。寺嶋エリア四国代表とのコンビで楽しませてもらっている。四国の先生方に感謝。

●１１月３日（木・祝）ＮＰＯ塾全協：全国研修会

中学校の修学旅行以来の奈良。大人になって訪れる奈良は完全に別物である。もう一度、ゆっくり奈良を満喫したい。さて、塾全協の後多田会長

●１１月６日（日）

大井町から教育を考える会：私立中高相談会

全国に広めたいと思う会。教育者が真の教育者として心が躍る会であると思う。

●１１月２０日（日）

東日本大震災支援：「出前寺子屋」石巻漢検講座

この出前寺子屋に教育の原点を見た。自分を高めたい人（勉強したい人）と、それを支援したい人（教えたい人）が、何の利害関係もなく集う。通常のボランティアや金銭や物品の支援とは異質のモノである。今、石巻で凄いことが起きている事は事実だ。この企画を立案し実行に移した、谷村和枝先生に敬意を表したい。共に、隔週日曜日に松戸から石巻に通っている谷村志厚会長も凄い。誰もできないことを２人はやっている。会員、賛助会員の皆さんにも支援をお願いしたい。私もできるだけの事をしていきたい。

●１１月２７日（日）　エリア北海道：総会研修会

総会で、入江エリア北海道代表が正式決定。学習塾と私学の先生方で情報交換。

●１２月４日（日）　エリア東北：「進学情報展in八戸」

八戸に良くこれだけ関係者が集まるものだと思う。畑山エリア東北代表の力であると思う。彼の企画力と行動力はすばらしい。関副理事長や安藤先生に大変お世話になり、もっとお話をしたかったというのが本音。

●１２月８日（木）エリア関東：定例会研修会

川崎大師にある中村学院を訪問した。２５年前川崎大師で私は、中村学院と競合していた関係で昔から知っている学習塾。学力、合格実績、塾生数…全てにおいて地域トップ塾である。私が密かにあこがれていた塾である。その秘密を今回、多少知ることができた。１番のインパクトは、塾生に自主的に学習をさせる学をさせるシステムである。訪問研修は宝の山である。

●１２月１８日（日）　エリア関東：忘年会

●１月８日（日）　ＮＰＯ塾全協：学習塾団体合同新年会

この日、谷村会長、仲野エリア関東代表は石巻へ、私と長江副理事長が新年会へ参加した。いつもの、学習塾の先生、私学の先生と新年の挨拶を交わすことができた。

●１月１３日（金）　エリア関東：入情研

関東の若手職員が中心になって運営する会。今後も多いに意見交換をして欲しいと願う。

●１月２２日（日）　出前寺子屋　石巻「漢検合格講座」

２回目の参加となった。参加者の皆さんが一生懸命に取り組む姿に感心する。今回も元気をもらった。

さて、私塾ネットは３団体が１つの団体となり、今年１１年目を迎えることとなるが、今年が本当のスタートと考える。私塾ネットの組織整備にはまだ時間がかかりそうだ。我々の活動はエリアの活動が全てである。各エリアがエリア会員の意向に即した活動を、各エリアで企画運営していく。センターは各エリアの横の連携をとる役割である。今後の組織整備については、各エリアに代表、会計、広報担当を置き、各エリアが総会を開催することが基本。今年は全８エリア、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州が出そろい形の上では全国のエリアが揃うだけに、エリアの整備と活性化がなおさら重要課題となる。今回の東日本大震災で教育の重要性を再認識させられた。私塾ネットも教育団体としての在り方を問われると考える。「教育でしか日本は変えられない」未来を創造できる子供達を育てていきたい。

東日本大震災東北災害対策本部に支援金を贈呈

広報36号でお知らせしたとおり、私塾ネットは被災地の学習塾復興支援として、支援金1,320,565円を東北災害対策本部に贈呈しました。12月4日、鈴木理事長は青森県八戸市で災害対策本部の大沼信雄本部長に寄付金の目録を手渡しました。

私塾ネット鈴木理事長（左）、対策本部大沼信雄本部長（右）に目録贈呈

エリア通信

エリア関東 広報部長　髙橋直子（千葉・津田沼学院）

『主体的なあり方』

私は常々主体的でありたいと思っているのですが、そうなれず反省することも多いです。しかしそんな中でもスタッフの育成については主体的であることを心がけています。私の学習塾では私以外の講師は学生で、面接では十分に人柄などを見た上で採用し、研修を積んでから講師としてデビューさせます。その後も定期的に研修を行い、技術と心の研鑽に努めますが、それでも苦情に繋がるような対応をする講師もおります。その様な時は「採用を決めたのも、研修をしたのも自分だから、まず責任は自分にある」と捉え、どうすればその講師が成長できるのか考えます。その中で生まれたアイディアや接し方を根気よく続けていく内に、時間はかかりますがほとんどの講師が成長してくれるように思います。上手くできないことの方が多いですが、気持ちは伝わるようです。もし私が「こんなことも分からないのか、こんなこともできないのか」と問題が起こる度にその原因を彼らのせいにしていたらどうなるのだろう、と考えると恐ろしいです。彼らの人生の中で「ここで働けて良かった」と思ってもらえるような場所を創っていきたいです。

また「心を込めて仕事をする」というのも主体的なあり方だと思います。私の塾ではいくつかイベントがあり、毎年似たような行事を行っていますが、「去年と同じ方法で」とか「例年通りで」ということはせず、必ず一から企画し直すようにしています。そうすると失敗もありますが同じような行事であっても飽きることなく、毎回新鮮な気持ちでその行事に取り組める気がします。そしてそれが結果的にはスタッフや生徒たちを喜ばせ、モチベーションアップに繋がるのではないかと思うのです。表面的には同じことをしていても、運営する人間から醸し出される何かが、会全体の雰囲気に影響し満足度に深く関わっている様に思います。もし簡単な見直し程度で例年通り行事を行っていたら、次第にマンネリ化し、運営側が「やらなければならない」という義務感でやるようになってしまうような気がします。そうすると行事を行うことが目的になってしまって、本来の目的を見失いかねません。理想かもしれませんが、仕事もプライベートもいつもワクワクしながら取り組みたいです。

また私は歌やスポーツなど一生懸命な人を見ていると涙が出そうになることがよくあります。人が心をこめて何かに取り組む姿というのは実に美しく、見ていて心が震えます。

主体的に取り組むというのは自分も周りの人も幸せにする大切なあり方だなとつくづく思うのです。

エリア中部　代表　松本　紀行（長野県・チャレンジ学院）

新年明けましておめでとうございます。さぞかし皆様、入試や新年度の業務に忙殺されていることと思います。小生は新春をことほぎ、今年の目標を立てましたので、そのことについて発表させていただきたいと思います。テーマは「塾経営を極める」であります。好景気だから経営が上手くいくわけではなく、不景気だから上手くいかないというわけでもありません。むしろ不景気と呼ばれる中にこそ、経営の本質が隠されているように思えてなりません。不況がチャンスであると呼ばれることに対しては、それなりの理由を考えております。

一つ、「人財育成のチャンス」である。
一つ、「塾舎を安く手に入れるチャンス」である。
一つ、「銀行から有利に融資して頂けるチャンス」である。
一つ、「よりよい教材を作れるチャンス」である。
一つ、「何よりも自分自身を高められるチャンス」である。

今年はこの五項目について、もっと追究したいなあと考えております。私塾ネットにおいても、ぜひテーマの一つとして掲げて下されば幸いです。

「誰がやっても必ず利益が上がる塾経営」とか、「どんな先生が教えても成績が上がる指導法」とか。笑われるかもしれませんが、本気で考える時期がやってきているんではないでしょうか。大手塾による寡占化がこれからもどんどん進むでしょうし、新たな塾の形態が雨後の筍のように出てくると予測されます。塾人全てが幸せになり、その家族が幸せになり、社会が平和になることを願い、塾経営を続けられるならば、どんなに楽しいことでしょう。そんなところに塾運営を極める要素がありそうな気がします。暗い世相の中でせめて塾人として、人を教える者として、笑って前へ進みたいと思います。

エリア近畿　代表　杉山　信良（大阪府・栄光塾）

１１月に若竹塾の佐藤先生から「私塾ネットの広島のメンバーで、早目の忘年会を有馬温泉でやるので、参加しませんか？」とお誘いをいただいた。二つ返事でお受けして、「１１月１３日・有馬グランドホテル」とスケジュール帳に記入。翌日早速、西川先生から案内が届くも、時間を確認しないまま当日を迎える。経験則から「多分、宴会は１８時３０分から…」と勝手に決めて１７時まで大阪でスケジュールをこなし、さて会場へ向おうと車を走らせた途端、田中弘樹先生から携帯に着信。「今日来られますか？」との問いに「田中先生もお越しでしたか？」と間抜けな返答をしながらも、「マズイ。みなさん到着されたんや！」と一瞬にして情況を理解。「ナビの案内では１８時３８分到着予定となってます（ってあかんやん！）」と伝えて刹那。高速を案内するナビのルートを捨て、一般道を飛ばして１８時５分に会場に到着。久し振りに芦有（ろゆう）道路をドリフト走行。

六甲山では、猪たちの間で、車体に「藤原とうふ店」って書いてあった。と噂になったとか…。（ここは分かる人だけでいいです）

さて、その後のエリア近畿の活動ですが、年内はお休みでした。中学受験が終わったら、またボチボチ集まろうかと考えております。

そんな開店休業状態のエリア近畿ではありますが、１０月に続いて兵庫県の明石から入会の問い合わせがありました。フランチャイズ系の塾の先生で、「ネットで調べたら、おたくの名前があったので…」とのこと、授業中でしたが、張り切って私塾ネットの説明をさせていただきましたが…。

あれっ？？ネットで調べて？イコール私塾ネットと思い込んでいたけど、本当は他団体の問い合わせだったのかも？

なーに構う事はありません。この先生には私塾ネットに入会していただきましょう！

思い返せば２月１４日に、京都で鈴木理事長と渡邊浩先生立会いの下、発足したエリア近畿ですが、活動と言えば、大阪で一度だけランチしながら二時間世間話しただけで、去年を終えてしまいました。

それでもえらいもんで、なあーんにもしていないのに、岡山先生が入会してくれて、その後も大阪・奈良・兵庫の先生方から問い合わせや紹介があって、現在入会予定者が三名いらっしゃるのですが、これってどなたに言えばいいんでしたっけ？　いまいち私塾ネットの組織に精通していないエリア近畿代表でした。

エリア中国　広報部長　西本　雅明（広島県・パワーゼミ西本塾）

明けましておめでとうございます。私塾ネット中国の1月定例会は会議の後に新年会代わりの食事会をするのが恒例です。今年も例年通りに、佐藤代表が手配くださった美味しい食事を頂き、華やいだ気分で新年を迎えることができました。さて、今年は新年早々うれしい報告が２つもあります。一つは、新会員の佐藤先生（パーフェクトゼミ）が初めて参加されたことです。名刺を交換しながら色々なお話を伺い新たな刺激を受けることができました。早く慣れて頂いて、もっと踏み込んだお話ができるようになればと思っています。

2つ目は、しばらくお休みしていた北川先生が久しぶりに参加され、元気なお顔を見せてくれたことです。永年いろいろな集まりで中心的な仕事をなさってきた方ですから、やはり私塾ネット中国には欠かせない人材だなぁと、発言の端々から感じることができ、改めてうれしさがこみ上げてきました。

さて会議の内容ですが、会員一人一人から、自塾の近況と教室を取り巻く環境についての報告がありました。

シンガーソングライターの城先生からは自宅で録音制作された受験生への応援歌が披露されました。バンジョーが奏でる軽快な音楽に、いかにも城先生らしい歌詞がのっかり、子どもたちに受けそうな応援歌でした。城先生の楽しみながら働く姿勢や新しいものに挑戦する意欲にはいつも学ばされます。山口先生からは教育勅語についてのお話が有りました。山口先生は会議のたびに新しい情報を出席者にご提供して下さいます。「僕はもう年だから」が、最近の口癖ですが、まだまだ私塾ネット中国のシンボルとして全国区でご活躍頂きたいと思っています。最後に他団体の企画ではありますが㈳全国学習塾協会の「塾の日シンポジウム」が今年10月8日に広島で開催されることについて進捗状況と概要が報告され協力要請がありました。

２０１２年４月２２日（日）は、
東京・浅草でお会いしましょう！

私塾ネット設立１０周年記念大会

日時：24年4月22日（日）
会場：浅草ビューホテル
第1部　研修大会
①記念式典
②記念講演会
上甲　晃氏
第2部　記念パーティー
演芸　江戸紙切り芸
林家正楽

エリア四国　代表　寺嶋　謙次
（香川県・学習院セミナー）

先日の当塾での進級説明会で使用した資料の一部を紹介させていただきます。

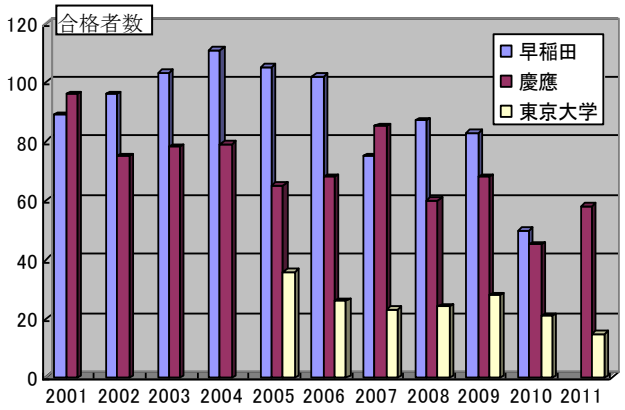
今はすっかり低迷している香川県ですが、30～50年前は、「教育県香川」として全国に名を馳せていた栄光の時代がありました。例えば、**丸亀高校（香川県中讃地区のトップ校）が早稲田・慶應大学に併せて１００名以上の合格者を輩出していた時代**があったのです。**東大合格者数で、高松高校（香川県のトップ校）が全国20位以内に入り、あのラ・サール高校の合格者数を上回っていた時代**があったのです。

ところが、今やすっかり意識が「内向き」になって、全国に挑戦するという気概がもはや失われたような気さえします。そこで、わたしどもの塾では香川県の意識改革を訴え続けてきてるわけです。

下のグラフをご覧ください。これは、「香川県」の「東京大学・慶應大学・早稲田大学の合格者数」の推移を表したグラフです。

（東京大学の２００４年以前の数値、および２０１１年の早稲田大学の数値は不明。）

香川県の東京大学･早稲田･慶應大学の合格者数の推移



香川県の2010年の合格状況

	香川県	東京都
東京大　合格者（a）	21人	999人
早稲田大　合格者（b）	50人	5048人
慶應大　合格者（c）	45人	3637人
大学受験者　総数（Ｘ）	4637人	63269人
東京大　合格者率（a/Ｘ）	1/221	1/63
早稲田大 合格率（b/Ｘ）	1/93	1/13
慶應大 合格率（c/Ｘ）	1/103	1/17

これを見ると**「この10年間で合格者数が半減した」と言えるくらいに、各大学の合格者数が減少**していることがわかります。

もちろん、東京大学や、早稲田・慶應大学が大学のすべてではありません。しかし、東京大学と慶應・早稲田大学は、それぞれ国立大学と私立大学のトップ大学です。このトップ層が減り続けているということは、トップ層を支える層、すなわち、**香川県全体が地盤沈下し続けている**ということを意味しています。単に「ごく一部の限られた上位層」だけの話ではないのです。

現在の香川県の中・高校生は、「学内順位」や「クラス順位」を非常に気にしています。都市部の高校生と比べると、「異常！」と思えるほど執着します。しかし、**香川県全体が地盤沈下している現在の状況下で、しかもそのごく一部でしかない「学内順位」や「クラス順位」を競うことに、いったいどれだけの「意味」や「価値」があるのでしょうか。**そうではなくて、視野を外に向けて、クラスや学校、そして香川県全体が一丸となって戦う姿勢を作ることの方が、はるかに重要なはずです。

ところで、忘れてならないことは、これは**「中・高校生の責任ではない」**ということです。**この「内向き」の空気というか雰囲気を作り出している真の原因は、私たち大人、特に我々教育に携わっているものにある**ことは間違いありません。大人がこの「内向き」の空気・雰囲気を作り出し、強制するからこそ、子どもたちは高校生になっても、まだ「内向き」なのです。そして、その持っている可能性を真に花開かせることなく、「まあ、こんなものか」と妥協して大学進学するのが、現在の香川県の高校生なのです。

努力は大切です。しかし、努力すればいい、というものではありません。実を結ぶ努力をさせることが肝要なのではないでしょうか。**大切なのは、努力の方向性です。**

努力は大切です。しかし、努力すればいい、というものではありません。実を結ぶ努力をさせることが肝要なのではないでしょうか。**大切なのは、努力の方向性です。**

大学受験は、「全国大会」です。「そのライバルの圧倒的多数は都市部の高校生たちだ」ということを、まず私たち大人が真に理解することから始めなければなりません。高校生になっても、まだ「学内順位」や「クラス順位」を競わせておいて「大学受験でがんばれ」というのは、あまりに無責任ではないでしょうか。

エリア北海道　札幌研修会レポート

木谷　朝子（木谷塾・東京）

昨年とは違い暖かい11月の札幌が、私たちを迎えてくれました。

第1部は、私塾ネット北海道の代表・書記・会計の選任から始まりました。日頃の交流がおありなのでしょう、極めてスムーズに終了しました。

その後、私立中学・高校５校、９名の先生方も参加下さって２６名での研修となりました。

今年のテーマは、「ビデオに撮った授業の活用」明日からでも塾で役立つ授業内容のデモンストレーションを釧路町のステップゼミナール大本先生からご説明して頂きました。　理科の実験手順や結果、数学の図形には非常に便利で何度も板書する必要が無いなど明日からでも使える内容でした。また、札幌進学教室の入江先生からは、ビデオではなくPDFを使い直接ホワイトボードに映すというもの。お二人とも機械に弱い人にも分かるように大変ていねいにご説明くださいました。この様な丁寧さを教育でも実践なさっていることが伺える楽しく、役立つ研修でした。

第２部は、１年ぶりのおすし屋さん「尾州」。変わらぬ極上の味に、北海道で舌の肥えた先生方も大絶賛！！この日のために粗食を続けた先生もいらっしゃるとか…。

２次会の主役は、花川ゼミナールの鈴木先生！無くてはならない先生です。

色々なことがあった２０１１年。だからこそ教育の必要性・重要性が見直された１年だったと思います。この研修でお会いした様な塾の先生、私立中学・高校の先生が頑張っている限り日本の未来は明るいと勇気付けられた札幌研修でした。

札幌進学教室（入江昌徳代表）での研修会風景。
手前お二人が東京から駆けつけた木谷ご夫妻。

研修の後は北海道ならではの海の幸。歓迎の挨拶にたつ入江代表。

中学教科書大改訂で
塾総合展（教材展）に長蛇の列

長江　勝秋（英数学院・神奈川）

今年も恒例の全国学習塾協同組合（AJC・森貞孝理事長）主催の塾総合展が1月11日（水）、有楽町の東京国際フォーラムB棟7階で行われた。

今回の実行委員長は私塾ネット会員でもある横浜の青葉学院の中村明雄先生。実行委員たちは早朝7時45分に現地集合し11時の開場に間に合わせるべく、業者と共にブースの設営・机椅子の配置・出展各企業の資料運び込みなど、戦場の様な忙しさで動き回り、無事定刻通り開会の運びとなった。

森理事長・中村実行委員長・浅輪信子専務理事（私塾ネット会員）・玉城邦夫副理事長（私塾ネット会員）の挨拶の後、一斉に開場。入り口前の受付付近は長蛇の列。出展42企業の各ブースも盛況で、同時に開催されたセミナーも満席であった。

私も実行委員の一人として、新年度の中学教科書の閲覧コーナー担当であったが、教科書改訂の年ということもあって、塾の先生達の感心は高く、訪問者が途切れることはなかった。

隣のAJC入会コーナー・社団法人全国学習塾協会（JAA）の入会コーナーにはなぜか担当者が留守のときが多く。やむを得ず、そちらも担当した。中でもJAAの「学習塾認証制度」に対する感心が高く、用意した資料はあっという間に品切れになった。

また、そこには「塾を開いたばかりなので団体に入りたい。」という数人の訪問者もみえた。そのような方々にはAJCとJAAの違いを説明すると共にさりげなく私塾ネットの宣伝をしておいた。

もし、その中で私塾ネット入会の者が出たときは、私の手柄なので、よろしく！

ブースを巡り教材を物色中の渡辺先生。お目当ての教材と出会えたかな。

私塾ネット四国・職員研修会

平成23年10月30日 大和屋本店（愛媛県松山市道後）

日　　時：平成23年10月30日　13:00～17:30
場　　所：大和屋本店（愛媛県松山市道後）
参加人数：59人（内センター役員6人）

第1部(13:00～13:55) ー私塾と私学の未来ー
講師：聖カタリナ学園 聖カタリナ女子高等学校 校長　芳野敬三先生

寺嶋エリア代表の開会の挨拶で始まりました研修の第1部。　次に、来賓の鈴木理事長からは、学びの場としての性質と居場所としての性質の2つに注目する時期が来ているという言葉をいただきました。また、今回コラボしていただいた愛塾連の会長である佐々木智英先生からは、塾長・職員の学びの場が道後であることの嬉しさも語っていただきました。

続きまして、現在は聖カタリナ女子高等学校の校長であられる芳野敬三先生は、6年前は四国の名門愛光学園の教頭をなさっておられ、四国の教育事情に精通しておられる先生です。

塾と私学が未来へとつながる上で「創始者の志」が貫かれるか否かは大きなファクターになるということです。私塾ネットの中にもジュニアの会がありますが、塾を未来につなげる彼らにとっても、また創始者である現塾長にとっても、ズンと心に響くことであったと思います。「いま、あなたは、あなた自身とその塾をどこに導こうとしているか」そして、「創始者はどこへ導こうとしていたのか」。これは大きなテーマです。

芳野先生の含蓄のある深いお話に一同納得。

次に、子ども達の学習意欲の調査結果から、子ども達は「どんなときに勉強したいか」という設問に対して、3分の2の子ども達が無回答であったという驚愕の事実と、残り3分の1の子どこ達は、親からほめられたり、分かるという実感があったり、自然現象に感動したり、と心が大きく動くときに「勉強したいと思う」というご報告を頂きました。

そして、このような報告の上に、我々は学ぶ人の失敗の事実を追及するのではなく、同じ失敗をしないための具体的なアドバイスや、指針(方向性)を示す存在でなければならない。さらには、そのアドバイスですら褒めながら言えなければならないと仰いました。

子ども達への「過保護」という言葉すら死語になるほどに「王様・お姫様」で育てられている子ども達を、そのままで受け入れてはならない。せめて、教わる人の心がどのようであるべきかは初めに教えることも、塾に求められる課題の１つである。

そして、　最後に、塾でも私学でも、指導者は生活習慣を考えてやるという前輪（方向の位置づけ）と、教科教育を後輪（駆動）とする自転車に乗る子ども達の手助けをしなければならない。と結ばれました。

聞いている私達の心の中には既にあるもの、意識してきたもの、気にかかっているものであるかもしれませんが、それを様々な角度から見て、語られるのを聞いていると、日常の作業ばかりに流されてはならないことを気づかされます。ありがとうございました

畳に漆塗りの小洒落た机を並べた会議室。いかにも道後温泉の老舗旅館にふさわしいた和風のたずまいに感激。

第2部 (14:30～17:00)ー 教科研修＋α ー

まず、谷村志厚会長から、石巻出張寺子屋の報告を頂きました。いまだにテレビから流れる映像を見ては胸が締め付けられる思いがしますが、関東の有志の先生達が子ども達の学びたい心をずっとずっと支えておられる姿は敬服に値します。ガンバレ子ども達！！ガンバレ有志の先生!

まず、湯口先生ご自慢のカバンのご紹介から。当然中身ですよ中身。子ども達の気持ちをワクワクさせるいろんなモノが入っていまいした。詳細はご本人に。

アイテム紹介の後に、「英文法」の講義をしていただきました。湯口先生の言葉は１つ１つに音符がついているかのごとく、講義は音楽を奏でるがごとく、フォルテ、ピアノ、フォルテシモ、クレッシェンド…会場を音符が飛び交うのです。（歌っておられる訳では決してありません。あくまでもイメージとして）、実にリズミカルに授業が進みます。その時、湯口先生は1つの楽器です。そうかぁ、これなんだ！と思いました。何も見なくても、プリントを頭の中に入れ、同じ授業をよどみなく語られること、これこそがプロの授業なんだと、ひとしきり感心しました。寝ちゃおれん。

（２）国語の教科研修　近藤寛康先生（文化の森スクール）

若手のホープ、文化の森スクールのジュニアである近藤先生が、まず国語とは何を学ぶ教科であるかを説明していただきました。物語、随筆、俳句、短歌、説明文、論説文、古文、漢文…実に多岐にわたって学ばなければならないことを改めて認識しました。

そして、敬語の学習は小学4年生からはじまり、それまでは放って置かれることが、国語の学習のみならず、子ども達の学習意欲にも関わっている、つまり、敬語を知らない子ども達は、教わる人と、教える人との区別が上手くつかないし、素直に話を聞けない状態にする陥ってしまう可能性があるということを指摘されました。なるほど、然り。

さらに、本来学ぶべき国語の学習とテストでよい点を取るための国語の学習が違っていることに国語指導の難しさがあると結ばれました。確かに、テレビ番組などではクイズ的な日本語力ばかりが注目されがちで、テストも若干その傾向に走っている現代。日本語力をつける授業は大変だぁ。でも、やらねば！

（３）数学の教科研修　楠山敬志先生（楠山ゼミナール）

空飛ぶ塾長の名を返上して、数学の指導に勤しんでおられる楠山先生のお話。楠山先生の講義は指揮者の講義です。生徒それぞれが自分の力で出来るようにと気配りされた言葉が心地よいです。

さて、数学は大胆な省略も、繊細な計算技術も、探偵のような観察力と洞察力も必要な教科です。ところが、近年かなり数学の解ける生徒でも、数感覚のなさが甚だしいと指摘されました。確かにそうです。「○÷0.25＝○×４」、これほどのことすら分からない生徒や、正弦定理、余弦定理の本体の意味を理解していないがため式の変形が自在に出来ない生徒もかなりいます。

理屈で攻めて、理屈で解決するタイプの生徒達が減り、点数はよくても洞察力のない生徒の多さは楠山先生の嘆いておられるとおりです。数学をじっくり観察する余裕がないのかもしれません。

（４）懇親会

場所が会議をもり立てることがある。それを今回、特に懇親会の場で実感しました。

懇親会の会場にはいると、小雨の降る中、右手の中庭石畳の向こうに能楽堂がありました。そして、そこでは今まさに薪能が演じられているではありませんか。何かしら厳かな気持ちになります。しばし言葉を失い、能に魅入る先生方。いい顔してます。

お品書きの順に懐石膳が運ばれ、和の心に触れれば和の話し方、酒の酌み交わし方が生まれます。膝をつき合わせて本音で語る懇親会。よい！

（５）カラオケあるいはジュニアの会

２会場に分かれてのカラオケ。盛り上がりました。カラオケB会場では、最後にサライで盛り上げ終了したようです。その間、ジュニア達は昼の講演を受けて、創始者（多くが父）の志とは…、と語り合っていたようです。いいなぁ、どうすればよいか悩んでいるということは、まだ何も決まっていないということ。それは、何でも出来るって事ですよ。

（６）終わりに…

小雨降る中、道後の商店街を抜けてた辺りにある老舗旅館　大和屋本店で開かれた研修会ですが、本当に場所が会の雰囲気を上手く演出してくれました。皆が膝をつき合わせ（研修会の時も）低い位置で話を聞くことが心地よいモノだと改めて気づかされました。そして、当たり前のことなのですが、研修をして下さった先生方、あなた方は立派なプロです。それも、気持ちのよいほどのプロです。ありがとうございました。

またまた、最後になってしまうのですが、東京から、広島から、遠路参加していただいた役員の皆様、先生方、それに、会場の検討から準備していただいた愛媛の先生方、本当にありがとうございました。個別に名前を書かなかった無礼をお許し下さい。

文責　川口順次

前日の29日には、大洲市の愛真塾大洲教室を訪問し研修を実施した。研修前のひと時を市内観光で過ごす。大洲城から肱川の向こうに冨士山（とみすやま）を望む。左から湯口、近藤、大住、谷村、柳田、近藤夫人。ちなみに編集者谷村はこの町の大洲高校の出身、ここ城山はまことに思い出深い場所だ。

宮城県石巻市・震災復興学習支援活動
私塾ネット出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」

出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」の仕組み

①活動期間
　第1期：2011年８月16日～2012年２月４日
　第2期：2012年２月19日～2012年６月２日
②スクーリング　14：00～16：00
　会場　石巻市仮設開成団地ささえあい拠点センター集会所
　８月１６日、９月４日、１８日、10月２日、１６日、
　11月５日、20日、12月11日、24日、1月8日、22日、
　2月４日、2月19日（会場確定分）
　漢字検定教材を自宅学習し、スクーリングで進度チェックと確認テストを実施。
　小中高生徒には求めに応じて学習指導も同時実施。
③漢検受検
　平成23年度第２回検定2011年１１月５日
　　第３回検定2012年２月４日
　平成24年度第１回検定2011年６月２日
④受講対象者
　仮設住宅、避難所、借上げ住宅等に居住する被災市民。
⑤受講者特典

１１回を重ねた出前寺子屋支援活動

2011年8月16日、宮城県石巻市仮設開成団地集会所で始まった私塾ネット出前寺子屋「漢検合格講座」は、１月22日の活動日をもって11回のスクーリングを実施しました。この間11月実施の漢検第2回検定では、受検者18名中17名が合格を果たすという、すばらしい成果をあげることができました。この時点で２級検定を修了した講習生および上位級受検の辞退者は卒業扱いとなりました。そこで第２期の講習生を迎え、2月4日実施の第3回検定に向けて真剣な取り組みが継続されています。1月22日現在の延べ登録受講生39名、このうち現在の講座登録者は31名となっています。スクーリングにはこのうち25名前後が常時出席されています。

一方支援する側の我々の体制は、谷村以下ＡＩＭのメンバーが核となり、これに首都圏メンバー数名が応援に加わる形で運営されています。復興ボランティに関与したいのだが、きっかけがないとお考えの皆さんには、ぜひこの機会をご利用いただきたいものです。

海都石巻の苦しみ―復興から福興へ

東北地方とはいえ太平洋沿岸に位置し、南に石巻湾を望むこの地は、冬の季節にも比較的過ごしやすい気候に恵まれています。北上川の水運と三陸沖の海の幸は、古来よりこの町に東北の海都にふさわしい繁栄と富をもたらしてきました。震災前の人口は162,000人余りで仙台につぐ県内第二の都市、ところが今回の震災の影響で、現在の人口は153,000人余と約9,000人減少しています。

今、石巻は塗炭の苦しみの中にあります。市の経済を支えた水産加工業がほぼ壊滅の状態なのです。どうにか石巻漁港は再開したのですが、肝心の加工場が復興していないため、基幹産業の水産加工業が機能していないのです。加工場が集まる魚町や湊町周辺は、いまだ破壊された工場建屋の骨組みを残したままの状態で、再興もようやく緒に着いたばかりです。

我々が出前寺子屋を開設している仮設開成団地は、第１～第11団地からなる被災３県でも最大の仮設団地で、入居戸数は約1100世帯を数えます。１月７日放映のＮＨＫスペシャルでは、開成団地を取材し居住者アンケートを公開しました。回答を得た759世帯によると、年金生活者を除く497世帯のうち「震災で仕事を失った」のは235世帯に上り、４７％が失業状態だそうです。また、失業状態にある世帯の３４％は、失業給付などを合わせても１カ月の収入が１０万円に満たない厳しい生活を強いられているとのこと。しかしながら、現地でお会いする人々の表情は思いのほか明るいものです。復興を信じ日々を暮らしておられるのでしょう。東北人の気質なのか、なにしろ寡黙で辛抱強いのです。そんな講習生の皆さんとご一緒するたびに、我々の使命は「家庭学習の復興」の支援であると改めて実感しています。

報告：谷村 志厚

平成23年度第２回検定・第１期生１８名中１７名合格の快挙！

◆活動報告⑦　［２０１１年１１月２０日］

11月20日、7回目のスクーリングを実施した。今回の活動に参加した私塾ネットメンバーは、一都三県から集結したなんと10名。神奈川から中村直人さんと中村庸彦さん（中村学院）、東京から渡辺浩さんと内川さん、三井さん（渡辺塾）、埼玉からは梶原賢治さん（朝日学習館）、監物一男さん（向学館）それに大住敬明さん（聖学舎）、そして千葉からは谷村志厚と和枝の2名である。

渡辺塾のメンバーは赤羽から車を走らせ、残りのメンバーは新幹線と東北本線を乗りついで、午前10時48分にJR松島駅に到着した。ここで合流した木伏氏の車を先頭に、東松島市の野蒜地区、石巻市の門脇地区といった津波被災地を巡った。初参加の皆さんには、まず津波被害の甚大さを実感したうえで、指導にあたっていただくのが通例となっている。

「出前寺子屋」の会場である仮設開成11団地集会所に入ったのは、午後1時を少し過ぎた時間であった。急ぎ教室づくりにとりかかる。今回はスタッフが多いのであっという間に「出前寺子屋」の完成である。昼食の駅弁を食べながら打ち合せ、そしてそれぞれ役割を分担して、7回目の出前寺子屋の授業の始まりとなった。

本日の受講生は第2回検定を受検したメンバー18名中15名、それに非受験組の5名を加えて20名であった。まず15名の皆さんにはご自分の答案のコピーを使って自己採点をしていただいた。ご自分で丸付け採点したものを、こちらで内部採点していた解答に照らし合わせ、予想得点を得ようという訳である。できるだけ辛目の採点をお願いをしたのだが、集計の結果は平均点が176点（200点満点）と飛び抜けた成績である。140点のボーダー上にあるのはお一人のみ、残りはすべて150点を超える好成績で、全員合格の快挙も夢ではなくなったのである。

とまあここまで書いたところで、25日、インターネットで合否結果が発表された。その結果は標題通り18名中17名の合格であった。心配していた3級受験者のMさんが、合格点に3点足らぬ結果となってしまったのだ。まことに残念だがMさんには、次の機会には準2級に挑戦していただこうと思う。合格者の内訳は別表の通りである。

自己採点会の最後に今後の希望をお聞きした。2級合格者はこれで卒業だが、準2級以下は次回以降上位の級位に挑戦をするか否かの意思を尋ねた。すると15名中11名が継続を希望し不明としたものが2名であった。欠席者の3名を加えると5名が継続未定者となっている。

個別指導を担当した内川先生（渡辺塾）、奥は中村直人先生。

小中学生の皆さんには今回初めての試みとして、個別形式の学習指導プログラムを実施することとした。そのために中3生は5教科合本、中1、2生は3教科合本の冬期テキストを、小学生には算数、国語2科のテキストを提供した。中村、三井、内川さんら若手スタッフに個別指導をお願いしたのだが、そんな中にずいぶん前に若手を卒業された、中村直人先生が加わっていたのはほほえましい風景であった。今回は生徒さんはわずか5名、学習時間は1時間程度だったが、学ぶ側と指導する側がともに新鮮な気持ちで取り組め、充実した勉強ができたのではないだろうか。今後の展開が楽しみである。

「課外活動」を取仕切る谷村和枝さん。「生花は心のセラピスト」を信念に、毎回花材一式を千葉から持ち込む。

学習の後の課外活動は、和枝先生の指導によるフラワーアレンジメントだ。25名分の生花や花器材料を千葉から持ち込むので、その準備は大変なのだが、大好評企画なので本人は張り切って準備に励んでいる。老若男女入り混じっての取り組みだが、みなさん楽しそうに、熱心に取り組んでおられた。「生花は心のセラピスト」が彼女の信念だが、まことにその言葉通り、完成した作品を前に皆さんの表情はそれぞれ穏やかで和やかであった。　（報告：谷村志厚）

11月5日の検定風景。テーブルがそろっていないため、小さな座卓を使った受検を余儀なくされた受検生もいた。そんなハンディキャップにもひとことの不満も出ない。

小中生の皆さんはフラワーアレンジメントを手に記念撮影。後方は関東からかけつけた私塾ネット10名の支援スタッフと後列左から4人目は現地の支援者木伏良明氏。

◆活動報告その⑪［２０１２年１月２２日］

年明け２度目、数えて11度目のスクーリングは初めて降雨の日となった。これまで雨の日もなければ、ましてや雪は初体験だ。ここ数日来、北日本を中心に厳しい寒さが続いていた。石巻がいくら過ごしやすい土地柄とはいえ、そこは東北、冬場に雪が降って当然のことである。驚くことでもあるまい。

今回の支援メンバーは谷村志厚・和枝と鈴木正之理事長、それに中村直人先生。鈴木先生は２度目、中村先生は３度目とあってまことに心強い。さらに仙台からは村山氏、現地では木伏氏が合流した。

仙台からレンタカーに乗り継ぎ１時間15分、三陸自動車道石巻港出口から市内に入る。出前寺子屋開講まで２時間弱の余裕がある。そこで今回は、津波で大きな被害を受けた渡波（わたのは）地区を経由して万石浦（まんごくうら）を訪ねることとする。

渡波は石巻から女川に至る街道沿いにある石巻湾に面した地域だ。その名の示すごとく、海とともに生計が成り立ている土地柄である。今回はその海から手荒い洗礼を受けたのである。

万石浦は石巻湾から狭い瀬戸でつながる内陸湾である。地図を見ればそのきわだった地形に思わず目が奪われる。この地形が瀬戸内育ちの小生にとっては、見逃すわけにはいかない景観なのである。12月に一度ここを訪れた経験から、同行者の皆さんにこの地を紹介したくて車を走らせた。万石浦は石巻地区の牡蠣養殖発祥の地で、先の大津波では狭隘な入口を持つ内陸湾の形状が幸いして、最小の被害でとどまったという。まさに万石に値する天然の漁場であり生活の土地なのである。

出前寺子屋会場の仮設開成団地ささえあい拠点センターに入ったのは午後１時10分前。テーブルと座卓を配置してあっという間に開校準備完了である。手慣れたメンバーはまことに有難い。持ち込んだ駅弁昼食もそこそこに、１時30分には最初の講習生をお迎えすることになった。２週に１度の勉強会を皆さん楽しみにしていただいているのであろう、いつも定刻前にはほぼ全員がそろう。さてこの日は２月４日の検定日直前のスクーリングである。出席は小中学生７名と一般16名、11歳から70歳まで老若男女が揃う、家庭学習のエキスがぎゅっと詰めこまれた教室である。まずは習熟度確認プリントと過去問題を配り、それぞれのペースで学習の始まりとなった。11月検定の結果判明から準備期間はわずか二カ月余り、今回が２月４日検定前の最後のスクーリングとあって、皆さんは真剣そのもの。途中わずか10分程度の休憩をはさんで、午後３時45分まで学習会は黙々と進められた。そして、最後にいつもの課外授業「フラワー・アレンジメント」を楽しみ、１１回目のスクリングも無事終了となった。

小6で準2級を受検するM君、模擬テストjは196点。採点役の理事長も口をあんぐり。

石巻に助っ人登場、塾のお仲間が応援に

今回木伏先生のご紹介で、石巻市内で学習塾を主宰されている佐久間さんご夫妻がお手伝いにみえられた。前回１月８日に初めて来られ見学をされたのだが、今回はお手伝いをということで分厚い漢字辞典を手においでになられた。佐久間先生はご専門が書道とのこと。なるほど道理で漢字辞典がお似合いのはずだと合点した。そこで一般の部の漢検学習の指導をお願いすることになった。まことに頼もしい助っ人登場である。このようにして地元にも我々の活動をご理解いただける方が現れ、共感の輪が広がっていくことは喜ばしい。今後の展開を期待したいものである。今回の出会いはこれまでの活動のなかでも、うれしい出来事のひとつとなった。

報告：谷村志厚（ＡＩＭ学習セミナー）

２３年度第２回漢字検定合格者内訳
２級 - ２名、準２級 - ２名、３級 - ８名、４級 - ３名、６級 - １名、７級 - １名
（小中学生７名、一般１０名）

２３年度第３回漢字検定受検者予定者２６名内訳
２級 - ５名、準２級 - １０名、３級 - ４名、４級 - １名、５級 - ５名、６級 - ２名、７級 - １名
（小中学生９名、一般17名）

ご支援ありがとうございます

当活動は活動参加者個人の負担と、ご支援をいただいた皆さんの浄財で運営しております。

今回の活動に対し全国の会員の皆さまから、10月23日以降1月25日現在で274,000円の献金をいただきました。ありがとうございます。

支援金の使途は、検定料、教材費の直接費用と市内移動交通費、通信費、スタッフ昼食費の間接費用にかぎり計上させていただいています。2月検定終了段階で第一回目の会計報告をさせていただきます。

ご支援いただいた会員の皆さんは以下の通りです。
富士進学スクール（埼玉）、いぶき学院（東京）、育英塾（北海道）、英数義塾（東京）、朝日学習館（埼玉）、山吹学習会（東京）、信州教育学園（長野）、英伸塾（東京）、向学館（埼玉）、ＬＡＰＩＳ鎌ヶ谷（千葉）、エイブル（香川）、文京学院大学女子（東京）、津田沼学院（千葉）。
（以上ご送金受付順・敬称略）
引き続きご支援をお願します。

振込先：郵便局　全日本私塾教育ネットワーク
口座番号００２３０－６－６８８２０

私塾ネットアーカイブス

明日を生きる現状

石田　治正（名誉会員）

名誉会員石田治正先生（東京・葛飾区）は、この一月83歳の誕生日を迎えられました。一病息災。通院をされながらも活発な執筆活動と、自らの被爆体験を後世に伝える「平和の語り部」を務めておられます。編集部の寄せられた多数の寄稿文から、「明日を生きる現状」を掲載させていただきます。

近年、家庭の教育力が縮小しその分だけ学校教育充実への依存度が高まってきた。元来家庭で教えるべきことが、いつしか教育という名のもとに刷り変えられた。教育重視の陰で若い親たちは責任転嫁している。戦前からのことわざに「三つ子の魂　百まで」という。人間は日常生活で陽の当たる所で継続していても人間味は表現できない。陽が沈んで寒くなる。逆境をくぐる度に苦難をじっと耐える。それを通して知らず知らずのうちに人間の心に幅ができ、力強い人間に成長していく。

私は近隣の町会で次の内容を語り継いだ。

「私は小学生時代に両親を失った。次に祖母を失ない親なし子だった」。その時代、広島市で原子爆弾の被災者となり、孤児として青春時代を過ごしたが「若かった親の分だけこの世の中で長く元気で生きたい」と思い努力を重ねた。それは幼年時代に両親が生きる力を家訓として指導してくれた。近年ＮＨＫ学園通信教育コースで「自分史」を執筆している。ペンを持っているとき幼年時代の思い出が浮かんでいる。「皆さんも早めに温和な人生を過ごすために、愛児たちに生きる道を丁寧に指導して下さい」と語り、出席者たちは涙ぐんで「よくわかりました」とお礼の言葉を受け、心にやすらぎを感じた。

ここで手元の手帳から転記します。

一、日頃から希望を実現させストレスに打ち勝つには「幸福」には一つでも条件が欠けると実現しない。人生に夢と希望を持ち続けると現実の幸せが存在する。

二、毎日の生活習慣として「食事、運動、休養の三要素をバランスよく実施することが大切だ」と通院中の病院長が私の顔を見ながら忠告された。

三、ある夜、久しぶりに夢を見た。それは死の渕に立つ母の手が伸び、私に布団を弱々しい力で引き上げてくれた。その後、私に浮かんだのは「這えば立て　立てば歩めの親心」の名文であった。

四、「病は気から」の中味は心と体の不思議な関係がある。ここで正しい知識を持てば健康に役立つ。長命の道は心が一番大切であると痛感した。

五、感謝の心を忘れてはいけない。これがなければ他人の協力は得られず孤立する。だから「お陰さまで」という言葉はなんとすばらしい言葉であろう。日頃から感謝の言葉を心がけている。

私は戦前の小学校で「修身科」の学習を力強く指導され今でも印象深い内容が存在している。その中味は「努力、忍耐、勇気、責任、友情、勤勉」など感動的な内容が多く含まれ、児童一同は熱心に学習していた。さらに歴史上尊敬する人物を課題にした授業内容を、近年は教養の荒廃で基本的な価値観を再検討の上再生してほしい。首都圏の私立校の中で道徳や倫理を基準にした人間の生き方を根本的に研究授業を実施する大学も数校存在する。

教育の一人として生きることは精神力の充実により役立っているという自信がある。私は毎朝、食事前に神棚の前で朗読している言葉がある。「あせらず　あわてず　あきらめず　あてにせず　あなどらず」先日久しぶりに旧友と再会しこう語ってくれた。「君はいつも家柄を重視し、先祖伝来の士族だった格式、家紋から武士道精神は、今もわが家で生きていると強調しているが、家族一同に徹底しているか」と顔を見ながら質問した。

私はこのように応答した。

時は流れ戦後六十六年になり社会情勢も大きく変化し、個々の価値観も多様化してきたが、やりたい事はほとんど終了したが、少しだけ残っている。それは経営している学習塾の仕事で生徒達に目標を立てて前進する方法指導に熱中している。先日久しぶりに祖父に会った夢を見た。面長の顔で微笑していたが、夢まぼろしと思いつつ輝く夢をつかむために毎日朝刊新聞の大活字を読むと国語力で高まり、教科書がすらすら読め学力が進歩するよと助言し実行させている。

ある生徒は読むスピードを上げる為に親が毎回、時間を計って応援して上達したという。その後、親戚筋がこの子を「新聞少年」と呼んでいるという。

私は「読書百篇　意自から通ず」という中味を賞賛した。自塾の指導法のひとつに朝日新聞の「天声人語」、読売新聞は「編集手帳」で重要事項に赤線を引いて見せる。そこで両親が音読して理解力を早めている。次に新聞一面から順に拾い読みをする。最後に自分が興味をもった記事を読みながら、手元のノートに「月日を書き、重要事項を書き、情報の理解を深めれば、必ず優等生になれるぞ」と激励すると生徒らは私の顔を見直していた。これが自塾の学力向上の基本方針の一部である。

今春の保護者会で配布した資料の一部は次の通りである。

一、人の心に希望や勇気を与える読書に親しみ要点を手帳に記入し朗読する。

二、人生の輝きを与える教育現場で出会う人との交流を深める。

三、ある日曜の午後、寝ころんだ時私の七十五年前の世相がよみがえってきた。

四、すばらしい旧友たちが年々減少し非常に寂しく感じている。
五、仕事を通して働く喜びや目標を見極める。
六、日常生活は横向きに寝て集中力を高めつつ深呼吸をする。
七、老人の生活基準は身体と脳を活発化する。
八、当面の目標は読む人に内情が伝わる文を書き続け手渡してみる。
九、生きる目的が明白であれば仕事も勉強も進歩する。
十、「ことわざ」は先人達の知恵と経験が詰まっている。
十一、事前に充分準備した講話は生徒達の目を輝かせる。
十二、教育目標は文武両道のバランスがとれた人材育成を推進する。
十三、「七転び八起き」の人生は学習する名言によって磨かれる。
十四、人生目標を立て意欲的に学習する心構えが大事である。

教育は繰り返しの作業である。近年目まぐるしく変化する社会で自分を失うことなく臨機応変に対応する。戦前は小学校で修身科を週二回授業があり担当は校長か教頭であった。教育方針は精神性の学習、人格の教育と人間形成、思いやりの心を育成し温和な知性が発揮され、充実した生活、勤労の尊さ、心身の健康、何事も着実にやり抜く意志は必ず幸運が宿ると指導していた。

昨年の秋、私立数校の合同教職員研修会に出席し質疑応答の際、教育理念について私はこう応答した。

第一は建学精神や校風である。仏教校には座禅実習を実施、またキリスト教系は礼拝と聖書学習を徹底指導、また、道徳授業を実施しているある学校は心身の健全増進、人間愛、平和社会の貢献、ある学校は道徳や哲学倫理について人間が守るべき行為基準を述べ、ある校長は最後に「私は独特の道義を理解し指導していきます」と語り会場から拍手を受けた。

平素から朗読している「ことわざ」

一、親思う心に勝る親心
二、生みの親より育ての親
三、姉女房は身代の薬
四、子は親を映す鏡なり
五、氏より育ち
六、子を持って知る親の恩
七、孝行のしたい時分に親はなし
八、親の光りは七光り
九、薬も過ぎれば毒となる
十、酒は百薬の長なり
十一、早起きは三文の徳
十二、雀百まで踊り忘れず
十三、腹八分目に医者いらず
十四、人こそ人の鏡なれ
十五、深き川は静かに流れる
十六、ペンは剣より強し
十七、仏の顔も二度
十八、蒔かぬ種は生えぬ
十九、道に聴いて道に説く
二十、無理が通れば道理引っ込む

私塾ねっと誌上句会　第九回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

書初の　太く濃く書く　「夢」の文字　　松本紀行（長野）
勝負師の　顔して孫の　初かるた
子どもの生命力が見えてきます。

雲一つ　なき初空に　鎮魂す　　中村直人（神奈川）
あくびして　列車おりてる　初詣
一生懸命年越しで初詣でした昔が思い出されます。

温室で　育った子らの　試練の日　　杉山信良（大阪）
後三日　なりふり構わず　寒稽古
夢中でこんな練習の繰り返し、思い出があります。

数の子を　一粒一粒　噛みしめる　　長江勝秋（神奈川）
初夢は　大当たり出た　宝くじ
夢を見ているうちが花でしょうか！？

ボタン一つ　外して春の　予感かな　　十亀幸雄（愛媛）
砂糖盛る　ごとくに冬の　石鎚山
四国の険しい霊峰の雪景色一度拝みたい！

小春日や　森の恵みよ　花園ね　　石田治正（東京）
新春や　ひと足早く　福袋
今年も買いました、ほとんどはずれがありません。

初夢の　正夢となれ　受験生　　谷村志厚（千葉）
書初や「絆」の一字　ばかりなり
人々との絆、世界との絆、自然との絆、未来との絆いろいろ想像させられます。

雪盛りて　鮮やかに火　椿かな　　梶原賢治（埼玉）
二三度の　雪を待ちたる　梅の枝

編集部からお願い　次号は4月発行の新春号です。
投句はお一人４句まで春または初夏の季語でお願いします。
投稿はメールshikot@aim-net.co.jp**またはＦＡＸ**047-368-2189　谷村宛。

渉外部報告　渉外部長・佐藤勇治

『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』の編集の合間を縫って、平成23年（2011）12月8日、東京・帝国ホテルで開催された（株）私塾界（全国私塾情報センター）主催の「Premium Seminar & Party」に副編集長の菅谷友豊香氏と２人で出席しました。

第１部は研修会、第２部は忘年会を兼ねたパーティーで、私自身は大手塾に対する『百年史』の紹介を兼ねて、昨年に続く参加です。以下、ご報告致します。

第１部　研修会と私塾界民間教育大賞の授賞式

（１）学習塾白書が選んだ2011年塾業界10大ニュース　学習塾白書監修　小林弘典氏
小林氏には、『学習塾百年の歴史』の第二部第二章の学習塾の変遷と第十部第五章の学習塾の統計資料の分析について寄稿して頂きました。

（２）「震災」と「復興」
（株）仙台進学プラザ　代表取締役社長　阿部孝治氏
仙台進学プラザは、宮城、青森、山形、福島、茨城、千葉、埼玉の各県に145教室を展開する大手塾ですが、今回の東日本大震災では、多くの教室が被害を受けております。昨年の3月11日の震災から半年間にわたる復興の足跡を冊子と映像にまとめ、代表自身が陣頭に立って復興に立ち向かった話には、説得力がありました。また多くの大手塾仲間に、物心両面でご支援頂いたのは、復興への大きな励みになったと話されていました。

（３）この日、第一回「私塾界民間教育大賞」の授賞式が行われ、下記の５名の先生方が受賞されました。

①民間教育最高功労賞
田中幸穂先生　1926年東京都生まれ、1964年渋谷に「栄光学習塾」を設立。
中萬憲明先生　1927年長崎県生まれ、1954年横浜に「中萬英学塾」を設立。
名城政次郎先生　1930年台湾生まれ、1951年ご尊父とともに那覇市に「商学塾」を設立。
福島清三先生　1934年高知県生まれ、1959年土佐に「土佐塾」を設立。

②民間教育特別功労賞（故人）
故　藤原信先生　1925年島根県生まれ、1956年大阪に「藤原理科実験研究所」を設立。

受賞者5名の先生方は『学習塾百年の歴史』に全員寄稿されておられ、詳しく紹介しておりますので、ここでは割愛致します。

（４）このほか、下村博文衆議院議員、大島九州男参議院議員、名城政次郎氏の記念講演がありました。

第２部　私塾界　Reception Party
帝国ホテル3F「富士の間」
午後6時より、大手塾の塾長157名が出席、忘年会を兼ねたPartyが開催されました。開会挨拶と乾杯は壇上にて、（株）「ナガセ」代表取締役社長の永瀬昭幸氏。その後、開会の冒頭で私と菅谷氏の２人が紹介され、『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』の発刊とその内容について詳しく説明させて頂きました。その影響は大きく、その日以降、大手塾からの本書の申込書がFAXで殺到致しました。平成24年(2012)1月7日（土）現在、浄財（寄付者）は167名、807口で合計4,035,000円で10口以上の寄付者は次の通りです。

No.	口数	塾名（社名）	氏名
1	100	（株）ナガセ	永瀬昭章
2	100	調布学園	佐藤勇治
3	80	（株）さなる	佐藤イサク
4	60	英進館	筒井勝美
5	40	練成会グループ	奥山英明
6	32	埼玉県私塾協同組合	坂田義勝
7	20	慶應受験会	菅谷友豊香
8	20	栄光教育研究所	田中幸穂
9	20	英進館（株）	筒井俊英
10	10	慶應受験会アネックス	菅谷隆臣
11	10	尚学院	名城政次郎
12	10	須原英数教室	須原秀和
13	10	名進研（私塾協議会）	豊川正弘
14	10	市進ウィングネット	小笠原宏司
15	10	あおき印刷	水沼述史
16	10	調布学園	佐藤一也

なお、12月8日(木)の帝国ホテルPartyには私塾ネットから田中弘樹先生、嶋田尊弘先生、清水貫先生が出席されていました。

平成23年12月8日(木)　帝国ホテル「富士の間」で午後6時から開宴された私塾界主催のReception Partyの冒頭で、編集長の佐藤勇治と副編集長の菅谷友豊香氏は壇上にて紹介され、本書の発刊と概要について説明させて頂きました。

『学習塾の百年の歴史－塾団体五十年史－』編集奮闘記

編集長　佐藤勇治

平成23年（2011）7月中旬から、原稿の整理、「あおき印刷」への原稿渡し、初校の割付作業、11月20日を締切とする二校目の修正を約140名の執筆者へ依頼と回収、戻りの二校目の点検作業と切れ目なく編集の仕事が続きました。そして、12月15日からの三校目（校正）は、年末年始を返上しての家内と２人の校正で、全く昼夜の別なく続けて行い、断続的に少し寝ては原稿を読み、疲れると効率が落ちるので、少し仮眠を取っては、また原稿に向うという毎日でした。

第１部から第11部までの約1100頁の校正原稿（三校目）は、1月10日の時点では、まだ黄、ピンク、青、緑の校正付箋が1000箇所以上貼られております。それでも読破終了です。

平成24年（2012）1月10日午後、「あおき印刷」伊藤氏に来て頂き、割付の変更、三校目の訂正箇所、今後のスケジュールなどについて約２時間かけて、綿密に打ち合わせを致しました。

しかし、前途多難です。読めば読む程、訂正箇所が見つかり、その都度辞書を引き、また全体の割付も新しいアイディアが浮かぶ都度、修正を繰り返して来たからです。

そして、最後の決断の時が迫って来ました。タイムリミットは1月31日です。

当初、三校目は、1月6日(金)に引き渡すことになっていましたが、とても間に合わず、その上、1月7日には家内がダウンし、最後は私１人で1月9日夜から、1月10日の午前6時まで徹夜して、すべての校正（三校目）を終えることが出来ました。その無理が祟って、私自身が1月11日から寝込んでしまいました。丸２日間は全く寝たり起きたりの状態で、1月13日（金）から少しずつ仕事を再開し、山積している原稿を書き始めました。その上、年賀状に、学習塾の全てがわかる『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史』堂々完成！！と書いたものですから、色々な方々から、お問い合わせの電話やらＦＡＸを頂き、対応に追われることとなりました。

振り返ってみますと、一昨年（平成22年）の原稿到着日から数えると、約1100頁の原稿を合計４回読破したことになります。特に三校目は、1ヶ月で1100頁の読破なので大変でした。ただ、読めば良いという訳ではなく、疑問点はすべて辞書で調べながらだから、膨大な作業量です。

「百聞は一見にしかず」本書の体裁を含め、以下に各部の頁数と簡単な内容をまとめましたので、ご覧頂き、推測して頂ければ幸いです。

【表　紙】［2頁］
【表紙絵】［2頁］
【口　絵】［2頁］
【巻頭カラーアルバムとキャプションで綴る平成の時代（H.10～H.23）】64枚［32頁］
【大正、昭和、平成の時代の白黒アルバム】150枚［75頁］
【巻頭言】［3頁］
【目　次】［10頁］
【第一部】　特別寄稿　二章（15名）［50頁］
文部科学省課長、東大、京大、一橋大学教授
衆議院、参議院議員、日本・東京私立中学高等学校協会会長　日比谷、浦和、千葉、北野公立高校、灘、東大寺私立中・高校の学校長、画家
【第二部】　学習塾百年の歴史　十章（10名）［146頁］　明治、大正、昭和（戦前・戦後）、平成の時代　島本塾三代記とアルバムで綴る小史
【第三部】　塾から学校を創った先生と塾長からの提言　九章22名［102頁］
【第四部】　大手塾、中小塾、個人塾からの寄稿　二章（54名）[160頁]
【第五部】塾団体五十年史　十一章（53名）47団体［236頁］
【第六部】教材会社、業界紙、テスト業者　三章（9名）［36頁］
【第七部】本書発刊への道程（みちのり）　二章・10節　編集委員（23名）［50頁］

【第八部】記念論文（１）江戸時代の寺子屋と現代の学習塾　七章[36頁]
【第九部】記念論文（２）学力低下問題とフィンランドの教育　二章[24頁]
【第十部】塾の歴史　調査・参考資料と歴史年表　五章・19節[54頁]
【第十一部】塾団体五十年史　資料編　五章（11名）［64頁］
【巻末付録】（その１）全国学習塾名簿一覧[50頁]
【巻末付録】（その２）浄財（寄付金）提供者一覧表［10頁］
【編集後記】［3頁］
【奥　付】　［1頁］
【合計＝約1150頁】

今回は、広報部より編集の苦労話を書いても良いとの許可を頂きましたので、編集奮闘記といたしました。しかし本書は、平成17年(2005)秋から６年余の歳月を掛け、160名の執筆陣、23名の編集委員、全日本学習塾連絡会議の幹事6名（坂田義勝、鈴木正之、松田邦道、本田恵三、菅谷友豊香、佐藤勇治）、平成24年(2012)1月7日の集計で167名、807口（１口＝5000円）、合計4,035,000円の浄財提供者、そのほか学習塾業界あげてのご支援があったからこそ、本書発刊が可能になった訳です。

また、副編集長の菅谷友豊香氏には、巻末付録の学習塾名簿、浄財（寄付金）提供者一覧のデータ整理のほか、原稿収集、挨拶文の発送など事務処理の面でもフル回転のご協力を頂きました。感謝有るのみです。以上、本書発刊には学習塾業界のみならず、多くの民間教育関係者のご協力を頂きました。

しかし、２月末の発行、３月の配本、発送作業、本書2000冊の頒布告知のため、全国での出版報告会の開催予定を考えると、今年１年は、残務整理に当たらなければならないと覚悟しております。私塾ネットの会員の皆様には、一層のご協力をお願い申し上げ、ご報告と致します。

平成23年12月11日(日)　編集長の佐藤勇治氏は、調布学園（自宅兼用）の二階事務室と和室(八畳)の二部屋を専有し、7月中旬より連日編集作業をおこなっている。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

1月１３日（金）、渡辺塾（東京都北区）にて、入情研（入試情報交換会）がありました。私塾ネット会員塾の職員が中心となって運営されている会ですが、今回はエデュケーショナルネットワーク開発部の池田亨氏にお願いし、関東の学校の入試分析をしていただきました。私も１年ぶり位の参加です。池田氏は、数字的なデータはもとより、学校説明会や教育委員会の情報を、自ら足を運んで得られている方なので、独自の見解に興味を引きました。この日のために、若い先生向けの切り口を考えて下さり、資料もたくさん用意していただいたことには、大変頭が下がる思いでした。

また、このような若い先生が中心となって行われ、真剣に耳を傾ける姿に池田氏も「つい熱が入ってしまった」と言われていました。

試験日程、応募倍率、試験内容などから、細かな分析をされていましたが、最後にされたメッセージが最も参加者の心を響かせたのではないでしょうか…。

「私は、このような仕事をしているので、数字を大事にしていますが、チェーン塾の多くは、数字（偏差値）だけで、志望校の進路指導をしているようです。でも、学校はそれぞれ違います。ここにいらっしゃる皆さんは、生徒一人一人に合った、生徒さんにとって最も良い学校を選んであげてください」

「最後の池田さんの言葉、すごく良かったです。」

閉会後、参加者の何人が私に伝えてくれました。嬉しかったです。

閑話休題　　編集長　谷村志厚

30日朝の日テレの情報番組「ZIP！」に、我らが事務局長仲野十和田さんが登場した。「リビング学習」というテーマに塾人として意見を述べるというもの。美男はお得だ。地デジの解像度にも臆することがない。ところで「リビング学習」とは？ご承知の方も多いだろうが、要するに家族とともに「リビング＝居間」で勉強をするというもの。子どもはどこで勉強すべきか。欧米並みに子どもに個室を与えるのが、生活の豊かさの指標かのごとくみられてきた。ところがここ数年、子ども部屋の閉鎖空間の功罪が問われるようになり、議論は一歩進んで「リビング学習」を推奨する時代となったようだ。なにやらモンゴロイドとしての日本人の特性には、個室は合わないと言った研究まであるらしい。我々の祖先は子どもと密着し、時間をかけてゆっくり育てていく方法で進化したのだそうだ。東京大学の学生に「子どもの頃どこで勉強したか」と尋ねたところ、「茶の間やリビング」の答えがもっとも多かったという調査もあるそうな。ことほど左様に教育問題は百家争鳴、一億総教育評論家のありさま。なるほど昨今「尾木ママ」がもてはやされるわけである。

フォート・ほっとコラム

情　　－感覚によっておこる心の動き－

昨年はわが国にとって大変な年となりましたが、年が明け引き続き新たな決断と希望を持ってこの難局を乗り越えていかなくてはなりません。

地震と津波、それに放射線を逃れて避難されている方々の映像を目にする度に、その忍耐と人情にいつも涙してしまいます。そんな中で見えてきたのは田舎の人に、お年寄りの人に脈々と流れている日本人の美しくてやさしい心と、そして耐え忍ぶことのできる強靭な心でした。

ふるさとを愛し、人を愛してやまない被災者の気持ちがきっと新たなる復興に向け力強く歩き出していくものと信じています。

こうした歩みを止めぬよう政府が迅速な判断で行動をおこすと共に（すでに随分と送れているのだが）われわれ国民も何かの形で手を差し伸べていかなくてはならないのではないでしょうか。

塾という仕事は純粋な心を持った子供たちと共にあります。それだけに今、素直にこの状況に心痛め手を差し伸べることのできる人のこころ、すなわち情を必要とします。

その点私塾ネットではいち早く被災地の子供たちに向けて行動しておられる先生方がおられます。さすが私塾ネットですね。

これからも人の絆、人の心（情）を大切にして生きていきたいですね。

情　　・・情け、人情、思いやり・・

（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　丹野　秀彦先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　小嶋　輝夫先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

京北学園中学高等学校　野中　政廣先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　園田　義宣先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校

村田学園小石川女子中学校　小林　隆司先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-5　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　金井　一郎先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　和田　功様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
新宿区新宿 5-17-17　渡菱ビル7F　TEL03-5155-8122